（1）地域連携コミュニティ再生講座のはじまるまで

この紙芝居風報告書は、二〇一二年度に開催された第六回地域連携コミュニティ再生講座 全体フォーラム（二〇一二）の記録です。この講座は二〇〇七年に始まって、北海道石狩管内の六市から一つずつ市民グループに参加してもらって、各市での取り組みに加えて、その経験を共有し、市民グループ同士がつながることを目的にしています。

この紙芝居風報告書は、六年目になったこの講座の達成したことを記録するものです。ですが、ただ二〇一二年の全体フォーラム当日の模様を記すのでは、その斬新さ、重要さ、楽しさが伝わらないのではないか、ここに至る経緯も一緒に紹介してこそ本当の大切さが伝わるのではないか、ということで「アクティブ・アクティブ」結成前史も描いたものです。（絵①、②、③）

さて、さて、紙芝居風報告書のはじまりはじまり～ です。

今から七年前のとある日、「えべつ協働ねっとわーく」「コンカリーニョ」の白鳥さんが思いつきました。

「そうだ。いろいろな地域で多彩な活動を繰り広げている市民グループに声をかけて、お互いの経験や課題や夢を話し合ったらどうだろう！」

そこで（公財）北海道地域活動振興協会（葛西さん）に相談、早速「地域連携コミュニティ再生講座」を開くことになったのでした。こうして石狩管区の六市からひとつずつ、活動分野も出自もバラバラの市民グループが一年に一度、それぞれの町での活動を携えて、一同に会することになりました。

初めから登場するのは、

「NPO法人 ひとまちつなぎ石狩」
「NPO法人 コンカリーニョ」
「NPO法人 えべつ協働ねっとわーく」
「NPO法人 北広島ITネットワーク」
「NPO法人 えにわ市民プラザ・アイル」
「一般社団法人 ちとせタウンネット」

です。それぞれグループの得意分野や志などは、HPでチェックして下さいね。

はじめに

今年も、地域連携コミュニティ再生講座の全体フォーラム報告書が完成いたしました。本書は地域連携コミュニティ再生講座の関係者はもとより広く市民活動に関わっている皆さんにも是非目を通していただきたいと願いつつ作成しております。まだお会いしたことのない読者の皆さん、密かに毎年読んでいる学者や官僚の皆さんのご期待にも十分応えるものが今回もできました。

今回の全体フォーラムでは、石狩管内六市の行政関係者と市民活動団体の代表が一堂に会しました。その光景は壮観で画期的でありました。

当初、企画段階では行政の方は率直にお話していただけるか不安も多少あったのですが、全くの杞憂でした。行政側の方から、悩んでいることを投げかけてくれる場面もありました。またそれを他の都市の行政の方がアドバイスする場面もありました。単に成功事例の報告だけでは、退屈な企画になってしまっていたことでしょう。

行政の方からは、こうした場を設けたことに感謝していただく場面もありました。

こちらこそ、感謝したいと心から思いました。何か明るい手ごたえを感じた企画になりました。

このシンポジウムでは、もはや「協働」というのが当たり前の前提となっていることが確認できました。

当日の午前中は「北広島そぞろ歩き」という市民活動の現場視察をいたしました。

快く視察に協力していただいた三団体の皆さんには改めて感謝したいと思います。

シンポジウムで「協働」が当たり前といわれているその一方現場では、視察した三団体とも「協働」をあまり感じさせない、しかしながら間違いなく公共的なものを担った活動をされている様子を伺うことができました。

結果的にですが、大変興味深い対比のとれた企画となりました。

「協働」の必要性自体は明白でも、そのあり方、あるいは役割分担などは実はまだ誰もはっきりさせていない領域かもしれません。今後我々や皆さんの市民活動の実践を通して明らかになってくるのでしょう。

今回の報告書は今までにも増して、質的にも画期的なものになったと自負しております。楽しげなイラストはアクティブ・アクティブ、全体フォーラムの雰囲気までも再現されるものとなりました。皆さんにはその辺りの雰囲気まで感じていただきたいと思います。

遠藤 淳

公益財団法人北海道地域活動振興協会
北海道の地域住民が、明るく豊かでゆとりのある地域社会の創造を目指し、心のふれあう地域づくり活動やボランティア活動及び公共の福祉に貢献する活動などの地域活動を推進し、活力ある地域社会の形成に寄与することを目的とする。

市民活動広域ネットワークアクティブ・アクティブ
石狩管内各地で市民活動の中間支援を行っている以下の六団体からなる協同組合のようなゆるやかな運営組織であり、各団体の活動を相互に補完・支援も行う。

◆NPO法人 ひとまちつなぎ石狩
市民活動に関する相談や情報収集、情報発信作業などを中心に、市民への活動支援を行う。また、地産地消事業の促進や文化継承事業、他団体や事業者と協働しての事業などのまちづくり事業を行う。

◆NPO法人 コンカリーニョ
札幌琴似八軒地域の劇場を核として、芸術文化活動や地域活動に関わっている人や団体と幅広く連携しながら、芸術文化の振興を図り、また芸術文化に関する事業をコミュニティ形成や教育・福祉に役立てることを目的とする。

◆NPO法人 えべつ協働ねっとわーく
市民活動等の推進拠点となる「場」の設置・運営をはじめ、様々な情報を積極的に受発信し、多くの活動団体や市民、企業、行政と連携を図り相互のネットワーク作りを行うことにより、活発な市民活動を生み出し、江別の地域文化や協働のまちづくりを育むことを目的とする。＝市民活動中間支援センターの設置・運営

◆NPO法人 北広島IT・ネットワーク
「デジタルデバイド」を解消し、市民がIT革命の利益を等しく受けられるようにすること。生きがい作りや仲間作り、豊かな生活、健全な街づくりなどを推進して、北広島市における「情報化社会作り」及び「生活の豊かさの向上」に寄与することを目的とする。

◆NPO法人 えにわ市民プラザ・アイル
非営利の市民活動団体や市民相互の情報交換や連携、その活動支援を通じて、市民の地域協力向上と協働のまちづくりの推進を図ることを目的とする。平成十九年四月より市民活動の拠点「えにわ市民プラザ・アイル」を設置し、運営にあたっている。

◆一般社団法人 ちとせタウンネット
千歳市内において活動する市民及び団体などのネットワークを構築し、相互理解を図ると共に連携を強めその活動を更に活性化させることを目的とする。

（2）みんなでつながりをかんがえてみた

とはいっても…　初めて顔を合わせる六グループの人々…

「経験を共有するって？」

「活動分野も違うし…」

「ワークショップやるのね～」

戸惑うばかりでした。

そこでまず、それぞれのグループごとに、結成の経緯、大きな出来事、得意技、困っていること、などなど年表を作って、お互いに自己紹介をしました。それから「つながり」を確かめるために、巨大地図でそれぞれの活動の根拠地や範囲を示して、一緒に舞台となる石狩管内、千歳川流域を見てみました。（報告書一）

お互いの事を知り合って、二〇〇九年にはいよいよ「つながろう」と…

でも…　しかし…

「つながる」ってどうすればいいのだろう？　というよりも「つながり」ってなんだろう？！　そこで皆で「つながり」をいろいろな角度から考えてみました。

いろいろな「つながり」が書き出されました。例えば、「つながりは目に見えた方がよい」半分くらい賛同！「おせっかいなおばさんおじさんが必要」ほぼ賛同！そして「つながりは行動力だ」全員賛成！といった具合です。（報告書二）

報告書は「アクティブ・アクティブ　一般社団法人ちとせタウンネット」で検索！

第一全体フォーラム
コミュニティを育む「場」を考える
初めて六団体が集まり活動報告を行いました。
二〇〇八年三月・札幌

（報告書一）第二回全体フォーラム
コミュニティを育む「場」を考える
大きな地図の上で「連携」を視覚的にイメージしてみました。
二〇〇八年十一月札幌

（報告書二）第三回全体フォーラム
みんなで「連携」を考える
「連携」ってどういうものか考えました。「アクティブ・アクティブ」というグループをつくり行動しようということになりました。
二〇一〇年一月・札幌

（報告書三）第四回全体フォーラム
みんなで「つながり」をつくる
各団体の活動場所を視察するツアーを行いました。「つながり」を考えるシンポジウムを行った後、支笏湖畔で合宿。「アクティブ・アクティブ」が正式に発足しました。
二〇一〇年十月・千歳

（報告書四）第五回全体フォーラム
伝える技術・受け取る心
「つながり」をつくる上で、広い意味での情報発信・受信が大切と考えました。恵庭の市民活動の現場を見学。現場からは多くのことが静かに発信されていることを感じました。
二〇一一年一〇月・恵庭

※各報告書は「市民活動広域ネットワークアクティブ・アクティブ」のサイト内でダウンロード出来ます！

（3）みんなでつながりをたしかめてみた

二〇一〇年、「つながりは行動力だ！」（全員一致）を受けて、六グループの人々は早速行動を起こしました。それぞれの活動拠点を、石狩→札幌→江別→北広島→恵庭→千歳と車十台位連ねて、一日かけて廻りました。これまでお互いに話には聞いていた様々な事々が、「あ～ここで起こっているんだ」「あ～この人たちと一緒に動いているんだ」と腑に落ち、活動の背景である風景が活動そのものと一緒に、皆の心に刻まれたのでした。

この時に初めて企画された合宿も「つながりは行動力だ！」から生まれました。支笏湖畔のユースホステル（田上義也一九六〇年建築）では改めて「つながり」が確かめられ、「これに形を与えよう！」となり、そして「市民活動広域ネットワーク　アクティブ・アクティブ」が産声を上げました。（報告書三）

二〇一一年、アクティブ・アクティブは、自分たちの「つながり」を確かめるだけでなく、外へと「つながり」を開きはじめます。この年は、「NPO法人 えにわ市民プラザ・アイル」の企画で恵庭。この美しい響きの町では、オープンガーデンを通してつながる人々、鮭が上り子供が遊ぶ漁川（いざりがわ）茂漁川（もいざりがわ）を作る人々、と出会いました。出会った人々の生き生きとした誇らしい佇まいは、美しく連続する庭、滔々と流れ季節外れのサケが尾びれを揺らす川を背景として、信じられないほど美しい風景となっているのでした。（報告書四）

二〇一二年、今年は「NPO法人 北広島ITネットワーク」の企画で北広島です。地域ぐるみでスポーツを育て、スポーツを通して地域を確かめる人々、毎年二十人の人の様々な思いを一本一本の桜に込めて植樹する人々、北広島の先人を夢をもって慈しむ人々と、出会いました。ここにも地域を愛し、人を慈しみ、自然と歴史を尊ぶ風景がありました。

総合体育館に集合！「ちょいすぽ」の活動見学。「大志さくら会」のお話を聴く

ふれあい公園で、「花咲か市民」の活動の様子を見学。

コミュニティレストラン**なごみ亭**で昼食をとりながら、「二蔵社中」による新作郷土芸能によるまちおこしの話を聴く。

◆NPO法人　よりづかちょいスポ倶楽部
地域のつながりが希薄になっている状況を背景に地元町内会が中心となって設立した総合型地域スポーツクラブ。二〇〇八年に活動を始め、二〇一一年にNPO法人取得。全くの民間組織で、市からの協力などは特にないが、スポーツ振興くじの助成を受けている。多世代・多種目・多志向の内容であるが、特に子供たちが健やかに育つ環境づくりに力を注いでいる

◆きたひろしま大志さくら会
「北広島を桜の名所にする」ということを目標に二〇〇八年から活動を行っている。「花咲かじいさん」ならぬ「花咲か市民」という植樹オーナーを募り毎年二十本ずつ植樹している。道外在住の花咲か市民もいる。運営は会費と植樹実費のみ。補助金の類はない。JR北広島駅周辺での植樹から始まり、花見の名所となりそうな所を見つけては土地所有者と交渉し植樹を行っている。

◆北ひろ二蔵社中
伝統的な文化があまりない北広島に郷土芸能を新たにつくろうと活動している団体。二蔵というのは、稲作の祖・中山久蔵ともち米づくりの先駆者・松原福蔵の二人の名前から取ったもの。当初は行政の力を借りることができず、「民の力でみせてやる」と活動を進める。
二〇一〇年新郷土芸能「餅つき囃し」を披露。さらに「北広島を唄う歌謡祭り」などを開催するなど新たな取組みも行っている。

（4）つながりをひらいてみた　その一

二〇一二年の全体フォーラムは、アクティブ・アクティブを構成する六グループがそれぞれの市の市民協働関係の担当課の人々に「一緒に話しませんか？」と声をかけ、六市の六市民グループと六行政マン／ウーマンによるパネルディスカッションが実現しました。じゃじゃん～　どれほど画期的であったことか！　想像してみて下さい。皆さんの市や町で、隣町やその隣町のＮＰＯと行政が一堂に集い、市民協働について話合うことなんて、めったに起こらないでしょ！！

■地域連携コミュニティ再生講座
全体フォーラム概要

日　時　二〇一二年十月二十日
　　一四時半～一七時半
会　場　北広島市生涯学習センター（夢プラザ）
主　催　公益財団法人北海道地域活動振興協会
　　市民活動広域ネットワーク　アクティブ・アクティブ
参加者　約三十名

○パネリスト（第一部～）
・石狩市企画経済部協働推進市民の声を聴く課
主査　**清水千晴**　氏
・札幌市市民まちづくり局市民自治推進室
市民活動促進担当
課長　**成澤元宏**　氏
・江別市生活環境部市民活動推進室
室長　**高橋孝也**　氏
・北広島市企画財政部行政推進課
主査　**及川浩司**　氏
・恵庭市生活環境部市民活動推進室
室長　**渋谷敏明**　氏
・千歳市企画部市民協働推進課
課長　**上野美晴**　氏

○パネリスト　（第二部～）
・ＮＰＯ法人ひとまちつなぎ石狩
理事長　**羽田美智代**　氏
・ＮＰＯ法人コンカリーニョ
理事長　**斉藤千鶴**　氏
・ＮＰＯ法人えべつ協働ねっとわーく
横本正彦　氏
・ＮＰＯ法人北広島ＩＴネットワーク
理事長　**酒井正汎**　氏
・ＮＰＯ法人えにわ市民プラザ・アイル
富塚　廣　氏
・一般社団法人ちとせタウンネット
代表理事　**村中敬維**　氏

○コメンテーター（第一部～）
・アクティブ・アクティブ代表　**白鳥健志**　氏
・東京工業大学准教授　**土肥真人**　氏

○司会進行（第一部～）
・アクティブ・アクティブ事務局　**遠藤　淳**　氏

北広島ＩＴネットワーク・酒井：本日は皆様お集まりいただきありがとうございます。平成二十四年度の北広島ＩＴネットワークの事業の柱の一つがこの全体フォーラムと考え活動してきました。

最初に、昨年亡くなられた佐々木邦俊（ほうしゅん）さんにご冥福を祈って黙祷を行いたいと思います。（一分間黙祷）

司会・遠藤：それでは始めます。まず簡単に経緯と今回のテーマについてご説明します。このフォーラムは公益財団法人北海道地域活動振興協会と広域市民活動ネットワークアクティブ・アクティブの主催で行われるもので、「地域連携コミュニティ再生講座」の一つとして位置づけられています。これまで過去五年間、市民活動団体のつながりを考え、つくるワークショップなどを行い、当初各市で個別に活動していた市民活動団体から「市民活動広域ネットワーク　アクティブ・アクティブ」が誕生しました。

今回は「つながりをひらく」ということをテーマにし、これまで関係団体内部で築き上げてきたネットワークに外部の視線を入れてみようと思います。外部にも様々あるかと思いますが、まずは市民活動団体にとって身近な外部＝行政の方にお越しいただき、議論してみようと思います。第一部では、行政の方々に話を伺い、第二部ではさらに市民活動団体の代表の方々にも参加していただきたいと思います。

司会・遠藤：ではまず各市での市民協働の状況や事例をきかせてください。

石狩市・清水：平成二十年は石狩市にとって協働のまちづくり元年でした。同年施行の自治基本条例をベースに「協働提案制度」や「市民活動情報センターぽぽらーと」を設立、ひとまちつなぎ石狩に運営を委託しております。情報の共有がまだ足りないと感じております。

札幌市・成澤：平成十九年に自治基本条例が施行されました。財政支援、人材育成、活動の場提供、情報提供が四つの柱です。具体的には「さぽーとほっと基金」や「市民活動サポートセンター」設置などがあります。

江別市・高橋：江別市では活動補助金などの支援事業、団体の把握や講習会の開催などの推進事業、情報共有やコラボの種をまく啓発事業が三つの柱となります。えべつ協働ねっとわーくと協働で江別市民活動センター・あいを運営しています。

北広島・及川：平成二十一年度からＮＰＯの認証事業を行っております。北広島には協働事業提案制度というのがあります。ＮＰＯが事業を提案し、市長が採択、予算化した上でＮＰＯが事業を実施するという制度でＩＴネットワークさんの「きたひろＴＶ」もこの制度で実現されています。新規事業が対象ですが今年度はありませんでした。平成二十二年度から日常活動から外れた活動に対して補助を行う広域活動補助金制度も始まりました。ただ活動内容が既に固定化している団体も多く日常業務から外れた新たな活動をやりたいと思い団体がそもそも少ない感じがします。

恵庭・渋谷：恵庭には「えにわブーケトス」という仕組みがあります。市民活動団体からの事業提案に対し、市民が投票で対象となる事業を選びます。市は住民税の一％分の財政支援を行います。最大五十万円です。今年で五年目になりますが、応募団体もマンネリ化していたり、低い投票率が悩みです。

千歳・上野：平成十九年度に「みんなで進める千歳のまちづくり条例」ができました。平成十九年度が市民協働実行元年、二十年度が定着年、二十一・二十二年度が充実年、二十三・二十四年度が改革年となっています。今後は拡大年、成熟年となることになっています。情報共有、人材育成、行政への参加が条例の三つの柱です。市民参加の手続きを制度化したり市民協働リーダー養成講座を開いたり、市民・市双方からの提案による協働事業を行っております。市民五名・市職員五名からなる市民協働推進会議で事業の選考を行ったり、条例の見直しをしています。

コメンテーター・白鳥：私は行政機関・民間会社の双方に在籍してきました。行政では、いかにお金を使うかを考えていましたが、民間会社やＮＰＯではいかにお金を得るかを考えなければなりません。この立場の違いは社会の仕組みそのものだと感じております。この立場の違いが集まるというのは五年前なら実現できなかった企画かと思います。今回はまず皆さんには市民協働をやるとしたら行政から見てＮＰＯは何が足りないかを聞いてみたいと思います。

コメンテーター・土肥：この五年間、六つの市民活動団体の方とこの全体フォーラムを通して一緒に考え、行動してきました。そして現在に至って、「広域市民活動ネットワーク」なるものが生まれました。これは誰も想像しえなかったことで、それが今実際に起こっていると感じております。皆さんにはこの「市民活動広域ネットワーク　アクティブ・アクティブ」がどう見えるのかを伺いたいと思います。

清水：自分たちの力に気付いていない団体が見受けられます。もっと自分たちの活動をＰＲしたらいいと思います。また法人としての組織力や運営力をつけて欲しいと思います。団体の皆さんは地に足のついた視点があるので行政が拾えないような事業を行っていただきたいと思います。

成澤：書類の整備や書き方など事務処理能力を高めていただきたいと思います。また行政や町内会、他のＮＰＯなどと上手く付き合い信頼関係を築いて欲しいと思います。アクティブ・アクティブもたとえば新聞を使うなどしてもっと上手く見せる工夫をされたらいいのではないでしょうか。

高橋：得意分野を生かした市民に広がるような活動を期待します。また市民活動団体の全体像がよく見えません。団体の皆さんにはもっと情報発信をして欲しいと思います。

及川：かつて市で買収した森林について、使い方を提案していただいたことがありました。提案していただくのはいいのですが、それを具体化するときにかかるコストも考えて欲しいと感じました。補助金を出す立場から言うと、会計書類などは法人であればきちんとしていただきたいと思います。貸借対照表の意味がわかっていない団体も見受けられます。アクティブ・アクティブに関しては、管内でつながりをつくるということはいいことだと思います。市同士もつながっておりませんでした。この機会に感謝します。

渋谷：今まで行政間という横のつながりがありませんでした。この場に感謝します。従来は行政からの提案を市民に投げかけるというスタイルでしたが、行政で全問題をみることができなくなってきました。状況は福祉や防災の問題、あるいは家に引きこもっている人をどうするかなど、小さいところ、行政が見えないところの提案をされるのがいいかと思います。ひとつひとつがつながれば、やがて街も元気になるかと思います。

上野：千歳市の協働事業でいいますと市からの提案より市民団体からの提案が多くなっています。また法人以外の団体も多いです。ただ助成金交付の期間が過ぎると事業が続かなくなるケースがほとんどです。市民団体には自立を見据えた事業提案をしていただきたいと思います。今回のこのような企画により行政間の交流の場ができてよかったと思います。

白鳥：行政が担っていたことを市民活動に託すことには二つの動機があります。ひとつは行政が拾えない小さいニーズを拾ってもらうこと。もう一つは行政側の経費削減です。ただもともと企業にとってもお金にならない事業を行政が担っていて、それをさらに市民団体に託してもなかなか自立させることは難しいことです。行政の皆さんには市民団体の自立を促すような方法を是非とも考えていただきたいと思います。たとえば、一つの部署や一つの事業を受けて、他の部署や他の事業を紹介するなどして事業の多角化を助けるなどできるのではないかと思います。

土肥：行政セクターだけが公共を担う時代は過ぎ去り、市民セクターも公共を担う時代になっています。海外の事例を見てみると、市民セクターが公共を担うからといって、全体にかかるコストは変わりません。しかし効率化が図られる、投資したポイントの効果が非常に高くなるということがわかります。今の日本で公共を担うう行政セクターと市民セクターというふたつがひとつのテーブルで話をするなんて、とても稀有なことだと思います。

遠藤：ありがとうございました。行政の方から横のつながりができたといって喜んでいただいたことは、予想外でしたがとてもうれしく思いました。これで第一部を終了いたします。

（5）つながりをひらいてみた　その二

六市の六市民グループと六行政マン／ウーマンによるパネルディスカッションは続きます。アクティブ・アクティブが広域の市民グループと行政をつなぐプラットフォームになったことが分かります。

しかし話はそれだけに留まりませんでした。全体フォーラムのわずか二か月後には、アクティブ・アクティブは千歳市の市民協働研修をグループとして受託し、市民グループの多彩な力を結集し、この企画を成功させたのでした！

アクティブ・アクティブの実力と可能性を瞬時に感じ取ってくれた千歳市の担当課の方々、石狩管内、千歳川流域の市民と力を合わせて、市民との協働の大切さ、具体的方法などを検討する千歳市の職員の皆さん、「つながり」の持つ力が、発揮された風景でした。

遠藤：それでは第二部をはじめたいと思います。第一部を受けまして市民活動団体代表の方々からききたいことがございましたらお願いします。

ちとせタウンネット・村中：行政と市民活動団体で信頼関係を深めるにはどうしたらいいかをお聞きしたいと思います。行政側としてどうすればいいか、そして市民側へのリクエストを伺いたいと思います。

上野：信頼関係の構築は大切かと思います。それには合意形成がとても大事になると思います。提案が一方的になると、提案された側に"やらされ感"が生じてしまいます。日ごろから話して情報共有すること、話は肯定から入ることが大切です。私は市民団体が主役と思っています。行政の仕事はそのバックアップだと思います。

渋谷：市役所が、敷居が高く入りづらい場所になっていると感じています。そこを、市民活動センターをクッションとして、市民が行政に近づきやすくするようにしたいと思います。また、パブリックコメントが集まらない、住民説明会をしても集まらない、そうした中で協働を進めるにはどうしたらいいかアイディアがなく困っています。

村中：確かに、入りにくいと思います。私たちのミナクールでは大きな声で挨拶をするようにしています。現実的な方法としてそうしたところから始めるのもいいのではないでしょうか。

恵庭市民プラザ・アイル・富塚：市民活動の場に行政の人が来るようにすることはできないのでしょうか。ニーズは現場にあるので行政の人も外に出てきて欲しいと思います。たとえば、市民活動団体の場に行政の方の机を置くことなどできないでしょうか。

また、福島からの被災者支援についてですが、既に行政だけでは限界に達していると思います。市民の手も必要となると思うのですが、その際地域の情報を役所からも提供していただきたい。今回岩手県ではその辺りを柔軟に対応しているようです。

成澤：パブリックコメントは実は行政の自己満足のような側面があるも否めません。何を聞きたいのかを絞るなど伝え方、出し方を工夫してみるといいのではないでしょうか。その他、インタビューや出前講座、タウンミーティングなどの方法もあると思います。

及川：信頼関係を築くにはまずはお互いの情報を出して相手を知ることから始まると思います。普段は決算書を見るだけで、活動自体がなかなか見えてきません。また市内の団体を廻ってみても市に期待するものが感じられません。

コンカリーニョ・斉藤：市民が「行く」か、行政が「来る」かは、いろいろやり方があると思います。また市民活動の立場からすると、事務的手続きなどについては育てていただく時間が必要だと思います。NPOも行政も資金面以外でも互いに頼らざるを得なくなってくると思いますので、そのステージを見据えてお付き合いしていただきたいです。

高橋：市民団体との信頼関係につきましては、普段からのコミュニケーションを大切にし、何を目指すのかという目標の共有と計画段階から打ち合わせを行うようにしています。

団体の皆さんには、公益性を意識した目線をもっていただければ信頼関係も築きやすいと思います。

成澤：信頼関係を結ぶには、さきほども出ていたように挨拶を積み重ねることから始まると思います。やがて仕事の話でなくてもざっくばらんに話せるようになると思います。そしてキーパーソンを見つけるといろいろ行政とのつながりもよくなるのではないかと思います。行政の机を外に置く話では、最初は期間や時間を限定するなど徐々にアプローチするという方法もあると思います。被災者支援に関しては、札幌市の場合、被災者の情報を集める際にNPOへの情報提供の同意を取りました。非常にセンシティブな問題なので、もしこれから支援事業をするなら改めて行政から被災者に情報提供の同意を取るのが必要だと思います。

清水：信頼関係を築くため、団体と一緒に育つことを心がけています。関係性を築くには手間はかかるが、挨拶や雑談を重ねることが大切だと思います。

村中：行政と市民活動団体で、いい意味での持ちつ持たれつの関係ができればいいと思います。

富塚：成澤さんの答えはとても参考になり感心いたしました。行政の方にはもっと市民の側に出てきてもらいたいと思っています。

渋谷：市民活動センター設立に向けて、行政と市民活動団体を結ぶキーパーソンが必要だと感じています。また行政内部でも外に出て行かなければならないという話しもあります。被災者のことに関しては、現在五十数世帯の被災者が来ておりますが、静かにしておいて欲しいという人もいます。プライバシーの壁があるのも現実です。

酒井：協働を実践している市民活動団体は、それはそれで立派だと思います。一方、まだ協働のテーブルに乗っからなくてもいい活動をしている団体もあります。さらには、生まれたばかりの団体では協働どころか税金を払うのに精一杯なところもあります。そうした生まれたばかりの団体に対してはたとえば三年間は税金を減免するなどの措置は取れないでしょうか？

清水：実は市役所内部でその話題が盛り上がりつつあるのですが、何故NPO法人だけ減免するかという理屈がないと難しいのが現状です。

村中：NPOは非営利ということで、他法人と区別して理論化できると思います。一般社団法人でも非営利なところはあるので、一緒に配慮を願いたいです。

白鳥：税金などお金の話もありますが、何のため市民活動をやるのかを改めて考えなければならない時期に来ていると思います。法人になることの意味は何なのか。その社会的責任を考えなければならないと思います。やりたいという気持ちがまずあって動くものですが、やめたくなったからといってすぐにやめるわけにはいきません。

もうひとつは中間支援センターとしての役割を強化することです。それは気持ちは強いが実行するだけの実力を持たない団体に対して、他のNPOとのマッチングを促し、市に支援をアピールしたりなどが挙げられます。市に対してはいいアイディアをもらいたいと思います。

たとえば今日午前中視察したきたひろしま大志桜の会は、会費と実費だけで活動していますが、既に二千本もの桜を植樹しました。これで市民活動の原点だと感銘を受けましたが、その活動には、「環境」や「高齢者の健康促進」「観光」などの要素もふくまれており、他団体とマッチングさせることでさらに活動が広がる可能性を秘めていると感じました。マッチングの他にも助成金情報を提供するなどができるのではないかとも思います。市の方でも一緒に何かできることがないか考えて欲しいと思います。

ひとまちつなぎ石狩・羽田：まちにはがんばっている人がたくさんいるが、つながりがまだ少ないと感じています。つながるというよりはその前にまずは団体として自立することをサポートしている段階です。また一方で自分たち自身の自立も課題と感じております。

いつも感じていることですが、行政内部で協働というのを考えているのだろうかということを問いたいと思います。小さなまちなのに各部局間での連携がとれていないように感じております。条例はできているのですが、その意味を職員の皆さんはどれだけ理解しているのだろうかと疑問に思うことがあります。

遠藤：ざっくり言うと、行政の縦割り問題でしょうか。行政内には各部局をつなぐ中間支援センターのような組織はあるのでしょうか。

成澤：基本的に行政は縦割りですが、つなぐ部署もあります。札幌市で言えば市民自治推進室や市長政策室がそれにあたるかと思います。また市職員向けのイントラネット上に職員掲示板があります。異動が行われても関心のある職員は関わった部署の内容を知ることができます。

斉藤：他の部局から市民活動についての相談などはありますか？

成澤：よくあります。随時話し合いをしています。また、何か他の部署に相談する際などは担当の係そのものより、担当係周辺で個人的に知っている人に相談してみることが多いです。職員生活も長いのでそういった個人的なつながりも使っています。

上野：職員の意識が低いと協働といってもなかなか進まないと思います。市長のマニフェストに「市民協働のまちづくり」というのがあり、その中に職員の意識改革ということが入っています。具体的な取組みとしては新規採用職員には市民協働研修を必ず行っています。係長研修の内容にも必ず市民協働が入っております。次長職からなる庁内協働委員会からは「この事業は市民協働で行った方がいい」などアドバイスを受けます。今年からは協働を体験した職員に職員を対象とした発表会の場で発表してもらうことになっています。ウチの課ではそういった市職員に対して意識を植え付けることを敢えて行っております。そうしていかないと皆さん忙しいのでなかなか意識は変わらないと思います。

えべつ協働ねっとわーく・橋本：「協働」自体が目的では協働は進まないと思います。何のための協働か？　概念的なことではなく課題や危機感を共有することが大切だと思います。恵庭のプーケトスでの低い投票率は他の都市でも同じような数字になるかと思います。そこに行政、市民活動団体共に考えなければならない根本的な問題があると思います。その問題というのは市民全体で地域の課題を共有するということであろうと思います。そこを突き詰めて話す機会ができればと思いました。

斉藤：私たち市民活動団体は事務能力もそうですが、提案能力を高めなければならないですね。

白鳥：今日はせっかく札幌市の市民活動サポートセンターの小林さんにも来ていただいているので観客席にいる小林さんの感想もききたいですね。

市民活動サポートセンター・小林：私たち市民活動サポートセンターは、市民活動の魅力を市民や行政に伝えることが業務の一つです。今日のシンポジウムを聞いて、事務処理能力向上をサポートすることが課題だなと思いました。

遠藤：その他会場から何かご意見ご感想はありませんか？

千歳ミナクール・松隈：上野さんの「やらされ感」の話には共感しました。

北広島市職員：北広島市は十年前と比べて市民参加がかなり進んでおります。とくに社会教育系の市民団体からの市への期待はものすごく高いです。協働に関しては行政の抱える課題をどう解決するかという事業に特化しては補助金に関しては確かに本年度はゼロです。それはどの市町村でもおなじと思いますが、補助金が経常的な活動よりイベント的なものに変てられやすい仕組みになっており、まじめに経常的な活動をこなしている団体がおろそかになるという問題があるからです。また管内では「わが市だけが市民活動センターの設置がありませんが、それには第二、第三の公民館にならないかを危惧してハード設立には躊躇しているという側面があるのです。

斉藤：建物そのものより「人と機能」が重要なのではないでしょうか。

白鳥：江別の場合はハードの要求はしませんでしたが、たまたま市の遊休施設があったので市長の英断のもと場所を確保できました。その後の活動も認められ、今回スーパーの二階に移転する際には市からもいくらか補助していただきました。このスーパーの二階というのが実は狙い目で、買い物客などが気軽に立ち寄ることができます。このような空き店舗の多いスーパーは各地にあろうかと思います。

村中：運営への助成金という形でお金を出してもらうのは確かに難しいと思いますので、仕事を発注するという形での助成を考えていただきたいと思います。

土肥：去年のこの企画で恵庭のオープンガーデンを視察した際、「連携」という言葉を思いつきました。つながりがある中でひとつひとつの庭がきれいになると街全体もきれいになります。同様に各団体のつながりがある中で、各団体の活動が楽しいとつながって行ける地域全体が楽しく見えます。今回は午前中、北広島の市民活動団体の庭＝活動場所をみました。そしてこのシンポジウムを通じて行政の皆さんの仕事場もイメージできる気がしました。たぶん良い職場だと思います。役所のデスクが「楽しい庭」であることが連携にとって大事なことだと思います。一方行政には行政の役割があり、公平性というのは行政が担わなければなりません。だからNPOはやりたいことだけをしているわけです。ただお互いの庭をみて学びあうことは連携をつくる上で大切なことだと思います。アクティブ・アクティブに関して言えば、既にある種の調整性を獲得していると思います。これが今後どういう展開で進むのか、一緒に学んで生きたいと思います。

遠藤：ありがとうございました。これで本日のプログラムを終了いたします。

（6）地域連携コミュニティ再生講座二〇一三年～二〇一四年

北広島から石狩へ

最後に、全体フォーラムに参加されたみなさんの声をご紹介して今回のお話は終わりとさせていただきます。ＳｅｅＹｏｕ　ｉｎ　ＩＳＨＩＫＡＲＩ！！

石狩市・清水氏

団体の皆さんの情熱や思いに応えられるよう、行政としての力をつけなければと再認識しました。また、他の自治体の担当者の皆さんから具体的な話しをじかに聞けて、担当者として大変刺激を受けました。

橋本さんのご指摘にあるように、団体と行政で現実的な課題を共有し、それぞれの力や役割を発揮するよう、互いに切磋琢磨しながら、課題解決に向かっていければと思います。

札幌市・成澤氏

・思っていたより小さい会場であったが、それがよかった。

ギャラリーも少なかったのでもっと近づいて話し合ってもよかったのかなと思った。

・他の市の方々と知り合えてよかった。

札幌市は近隣市町村との連携や交流、情報交換などはほとんどない。

あるとすれば、政令指定都市など同規模の都市になることが多い。

・ガチンコのディスカッションでも全然問題なく大丈夫です。

江別市・高橋氏

石狩管内六市で活動されている市民活動団体が、各地での取り組みや課題、行政に望むこと等、実直な話を聞くことができ、有意義な会議となりました。

市民活動団体の皆さんが共通の課題として話されていました行政との関わり方については、普段からのコミュニケーションによる目標の共有が大切との意見があり、今後の業務を進めるうえで、お互いに心がけていきたいと考えているところです。

江別市の市民協働は、「ＮＰＯ法人えべつ協働ねっとわーく」との協働により実施しています。当該団体は、市民と行政との間に立って様々な市民活動を支援する中間支援団体としての役割を担っており、「江別市民活動センター・あい」を運営し、市民活動に関する交流促進、情報の提供、活動支援、人材育成などを行っているところであります。平成二十四年七月に市内の大型商業施設の二階に移転し、買い物のついでに気軽に立ち寄れる「場」となりましたので、自らの強みを発揮して活動されている市民活動団体の情報の発信も多くの市民の目に触れ、市民協働への理解が進むものと期待しています。

最後に今回のフォーラムの参加を通じて、管内六市の市民協働担当者の顔合わせにもつながりましたことに感謝いたします。

北広島市・及川氏

管内でつながりをつくることはいいことですね。市同士もつながっていなかったが、今後はこれを機会に連絡も取りやすくなると思います。

恵庭市・渋谷氏

行政同士の横のつながりというのは今までなかった。この場に感謝したいと思います

千歳市・上野氏

・行政間の交流の機会にもなったので、声を掛けていただきありがたかった。

・各市の取り組み状況や、考え方がわかりとても有意義であった。

・参加された各市民団体は、知識と経験が豊富であり、また、このようなアクティブ・アクティブとしての活動の蓄積からも力があると感じた。

ひ各市民団体の自主事業と市との協働事業とは、趣旨・目的・効果が合致しない場合もあると思うが、相乗効果が見込める事業については、行政と連携していくことの必要性を感じた。

ひとまちつなぎ石狩・羽田氏

今年のアクティブ・アクティブ、まちづくりをやっていくには欠かせない行政の方を呼んでのフォーラムはなかなかでしたね。

協働を一緒に考えたことに非常に意味がありました。こんな機会、これからもあるといいですね

コンカリーニョ・斉藤氏

他都市の取り組みを知ることができて、よかった！

アクティブ・アクティブ事務局（司会）・遠藤氏

同じ「公共」を担う「行政」と「市民活動団体」では、その取組み方や考え方が異なる、あるいは役割が異なって然りということが、この全体フォーラムを重ねるにつれわかってきました。次回はどんな発見があるか楽しみです。

アクティブ・アクティブ代表（コメンテーター）・白鳥氏

全体フォーラムを各都市で開催することになって、今年で三回目になります。

各地の市民活動の状況の違いと、市民活動の有り方が目のあたりにして感じられるのは非常に参考になり、価値があるものと思っています。

今回の、北広島市さんから紹介していただいた活動は、地道ながら行政の手の入りづらい所を、辛抱強く、また楽しげに行われていることに感心し、感銘すら受けました。「市民活動の本髄」を見たような気がします。

また、各都市の市民活動を促進する担当部所の方たちと我々市民活動の中間組織の者たちが一堂に会して話し合いを持てたのはある意味、画期的なことだと思います。

各都市の皆さんが我々のお招きに応じていただいたことに関してまずは、お礼を申し上げたいと思っています。

話し合いの内容は、今回は最初のことでもありましたので深いところまで立ち入ったとは言い切れませんが、とにかく、行政・市民活動団体間のヨコの関係を構築するキッカケを作れたと考えています。

さて、次回以降の展開は？・・。答えは、「慎重かつ大胆」にでしょうか。

みなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

えべつ協働ねっとわーく・橋本氏

「協働」とひとくちに言っても、各市毎に異なるイメージを持っており、このような場を重ねながらその隔たりを埋めていくのが大切だと感じました。

北広島ＩＴネットワーク・棟方雅恵氏（酒井氏代理）

連携の意味を「わかってたつもり」がわかったのが収穫の一つ目。

顔を見て話すことで、ひとりひとりが身近に感じられました。

二つ目は、それぞれの仕事は違っているけれど、目指すことは同じ。

自分を含める皆が生きやすいマチが目標です。

ありがとうございました。

えにわ市民プラザ・アイル・富塚氏

近隣自治体の市民活動促進担当者が一緒になる機会はあまりないとのことで、いい機会が提供できた。同時に、各自治体の違いも見えて、大変おもしろかったですね。

ちとせタウンネット・村中氏

一、石狩管内にあるすべての市が揃い、その市にある市民団体を含め、全体で意見交換や議論ができたこと。

二、その意義あるフォーラムの実現を市民団体の連合体が主催できたこと。

三、市民団体が企画したフォーラムで、行政が初めて他市の複数の行政担当者と直接意見交換が実現し、行政だけでは決してできなかったと感じていただけたこと。

この三点については、市民団体側はもちろんの事、行政側から見ても市民団体と協働する事によるメリットを実感していただく事ができたことと思います。そのため、これからさらに市民協働を進めていく際に大きな意味がある事業となったに違いありません。

これからも行政を巻き込んでいく際には、行政側が「これから関わっていこう」と思える事も企画の重要なポイントである事を強く感じました。

ちとせタウンネット・松隈氏

地域を超えたまちづくりの輪が、行政にも広がった！

各団体の特徴を最大に生かしたフォーラムが継続されていることは、私たちの誇りです。アクティブ最高！

ちとせタウンネット・竹田氏

フォーラムに参加するたび、その地域の新たな一面を知り、つながりが広がるのでワクワクします。

アトリエ・ハル・藤野敬史氏

東京から参加させて頂きました。フィールドワークでは北広島で起こっているいろいろな活動を垣間見させて頂くことができました。

パネルディスカッションでは新しい議論の形、風景も見ることができ、今後の展開がまた楽しみです。

「地域連携コミュニティ再生講座」

転じて、NPOアクティブ・アクティブの力

私が「地域連携コミュニティ再生講座」に関わるようになって、五年が経った。またこの講座からアクティブ・アクティブというNPOが生まれてからも二年が経つ。この五年間で起こったことや、特に最近の二年間の活動が生み出しているものから、私はアクティブ・アクティブに集まる六つの市民グループの方々と一緒に多くを学び、歩んできたと思う。全体フォーラム二〇一二の持つ大きな意味を示すためには、まず私たちがこれまで学び行動してきたことを再確認する必要がある。

毎年の全体フォーラム報告書を振り返ってみよう。

二〇〇八年：「つながり」が同じ時の流れや大地を舞台に起こること

二〇〇九年：市民グループの「つながり」は行動力が生み出すもので、行政のつながり方とは異なること

二〇一〇年：六グループの活動見学ツアーを行い場所、風景を共有したこと（そしてアクティブ・アクティブが生まれた！）

二〇一一年：つながりの舞台の一つである恵庭で、「つながり」を再生講座以外の恵庭の市民グループへと開いたこと

そして…

二〇一二年：新たな「つながり」を北広島の市民グループと持てたこと、さらに「つながり」の舞台である六市の市役所の市民協働を担当する人々へも「つながり」ったこと

以上の軌跡からは、三つの側面が見えると思う。

一つ目は、六年前にほとんど初めて出会った六グループの人々が、とまどいながらも「つながり」を真剣に考えてきたことである。「つながり」とは「何か」「必要なのか」「どうすればできるのか」「何ができるのか」：、私たちはこの五年間考え続けてきた。

二つ目は、六グループで実際に「つながり」ってみようとし、「つながり」ってきたことだ。お互いに「得意技」や「助けて欲しいこと」などを挙げて、具体的な「つながり」を実現してきた。すべてのグループの活動場所を訪問し、それぞれの大切な場所を直接感じあったことも「つながり」を目に見えるもの、身体で感じられるものにした。三年目から毎年開催されている「研修合宿」も六グループの「つながり」を強くし、遂にアクティブ・アクティブ結成に至ったのである。

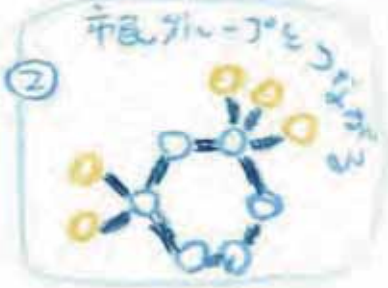
三つ目は、自分たちが作りつつある「つながり」を外に向かって広げようとしていることである。

「つながり」がアクティブ・アクティブという具体的な姿を得たことで、自分たち以外の市民グループとの「つながり」を求めることができるようになったとも言えよう。恵庭で「恵み野オープンガーデン」「漁川・茂漁川の多自然型改修」、北広島で「よりづかちょいスポ倶楽部」「きたひろしま大志さくら会」「北ひろ二蔵社中」の方々と出会い、アクティブ・アクティブという「つながり」に「つながって」もらった。これは二〇一三年以降も他の町々で広げていこうと考えている「つながり」である。

そして本報告書の中心部分となっているのが、六市の行政マン・ウーマンの方々との出会いである。アクティブ・アクティブの六グループはそれぞれ日常的に自分の町の行政の方々とは緊密な関係を構築している。特に各市で中間支援の役割を果たしているグループ（「ひとまちつなぎ石狩」「えべつ協働ねっとわーく」「えにわ市民プラザ・アイル」「ちとせタウンネット」）は、まさに行政と市民グループを「つなぐ」のが大切な仕事のひとつである。だから自分の町の行政の方々にアクティブ・アクティブと話しませんか!?と声をかけるのは、そう特別なことでもなかったかもしれない。ところがアクティブ・アクティブと話すことは、各市の行政範囲内の市民グループを通してより広域の市民の「つながり」と話すことになるのだ。全体フォーラム二〇一二で、お互いの町での経験を市民サイド行政サイドから同時に話し合うことができ、続いて市民協働の意味や意義などについて、忌憚なく意見を交換できた所以である。さらに嬉しく驚いたのは、六市の行政の方々が名刺交換する風景であった。アクティブ・アクティブは六市の市民協働の担当課を、市民の「つながり」の仕方、つまり行動によって「つない」だのであった。

これら三つの側面、すなわち、①不断に「つながり」を考え、その実現を考えること、②自分たちが有効で意味ある「つながり」を実践すること、③アクティブ・アクティブを通して多くの市民グループ、行政を「つなぐ」こと、これらはそれぞれ絡み合いながら事態を推し進めていると思う。「つながり」を納得し、その実現に一生懸命取り組んできた「地域連携コミュニティ再生講座」の人々＝アクティブ・アクティブこそが、自分たちの活動の舞台で、縦横に市民グループと行政を「つなぐ」プラットフォームになっているのである。A市とB市の市民グループをつなぐこともできるし、C市の行政とD市の行政をつなぐこともできる。E市の市民グループとF市の行政をつなぐことだって、このプラットフォームを経由すれば可能なのである。かつてこのように多様なグループを「つなげ」られるプラットフォームがあっただろうか？私はないと思う。

さらに物語は続く。二〇一一年十一月の全体フォーラム開催後、アクティブ・アクティブは早速千歳市の市民協働研修を受託し、二〇一三年一月に千歳市の係長級職員の方三十名と共に研修を行った。これはまず第一に、②のアクティブ・アクティブ自体の「つながり」の力の発現である。企画、演劇、行政との交渉などアクティブ・アクティブを構成する市民グループの力を合わせた素晴らしい研修プログラムだったと思う。と同時に、③の「つながり」を行政に開いたからこそ、千歳市の優秀な職員の方々と出会い、この研修をぜひ！ということになった。このようにアクティブ・アクティブ自体の「つながり」の力は、他のグループをつなぐプラットフォームとしてのアクティブ・アクティブを通してさらに強められる。アクティブ・アクティブはこれまで／これから「つながる」多くの市民グループの力と結びつくことで、その度その度に必要とされるアクティブ・アクティブの力とすることができる。（例えば、生態系の知識が必要な事業は漁川の人たちと、人々の記憶や植樹の事業は大志さくら会の人たちと、タッグを組んでアクティブ・アクティブとして動ける。）これがさらにプラットフォームとしてのアクティブ・アクティブを柔軟で強く広くする。五年間の「つながり」をめぐる実践は、まさに千歳川流域を舞台に、他の地域には見られない、多様で柔軟で広範な「つながり」を生み出しているのである。

最後になるが、今回も「地域連携コミュニティ再生講座」全体フォーラムを開催する機会を頂いた公益財団法人 北海道地域活動振興協会に感謝いたします。

二〇一三年三月二十六日　　土肥真人